

2024 年度活動報告

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

(特活) 関西 NGO 協議会

「少人数体制で事業継続を重視した 1 年」

2024 年度はフルタイム職員 2 名、パートタイム職員 1 名でスタートし、職員の休職や退職が発生する中、事務局長の栗田を中心に以下の方針の下、事業を行った。

【2024 年度活動方針】事業の選択と集中。財政基盤の強化を図り、組織の持続・発展を目指す。

上記方針の下、重点項目として以下の 4 点を掲げた。

- ① ワンフェスユースの再設計と実施
- ② ネットワーク NGO としての役割の再検討と中期計画の策定
- ③ 財政基盤強化（マンスリーサポーター（毎月寄付））の設定の検討
- ④ 外部の協力者・支援サービスの活用を含めた管理体制の見直しと強化

以下の通り、各項目に対するレビューを行う。

① ワンフェスユースの再設計と実施

これまで開催をしてきた高校生実行委員会の形式から、関西 NGO 協議会が主体となり、企画を構成する体制へと変更した。運営における事務局への負荷は減少したが、少人数体制で出展者との調整、協賛、後援の申請や対応、広報を行ったため、昨年以上の規模での開催をすることはできなかった。参加者の当日キャンセルもあり、集客の課題が残る開催となったが、ブースよりも広いスペースで NGO と来場者が話す機会や高校生の発表エリアを作る設計は好評だった。

② ネットワーク NGO としての役割の再検討と中期計画の策定

少数体制となり組織として活動の継続をすることに時間を要し、ネットワーク NGO の役割については、他ネットワーク NGO と協議をしたが、中期計画まで十分な議論を進めることができなかった。

③ 財政基盤強化（マンスリーサポーター（毎月寄付））の設定の検討

少数体制となり、企画、検討を進めることができたが、開始までに至らなかった。

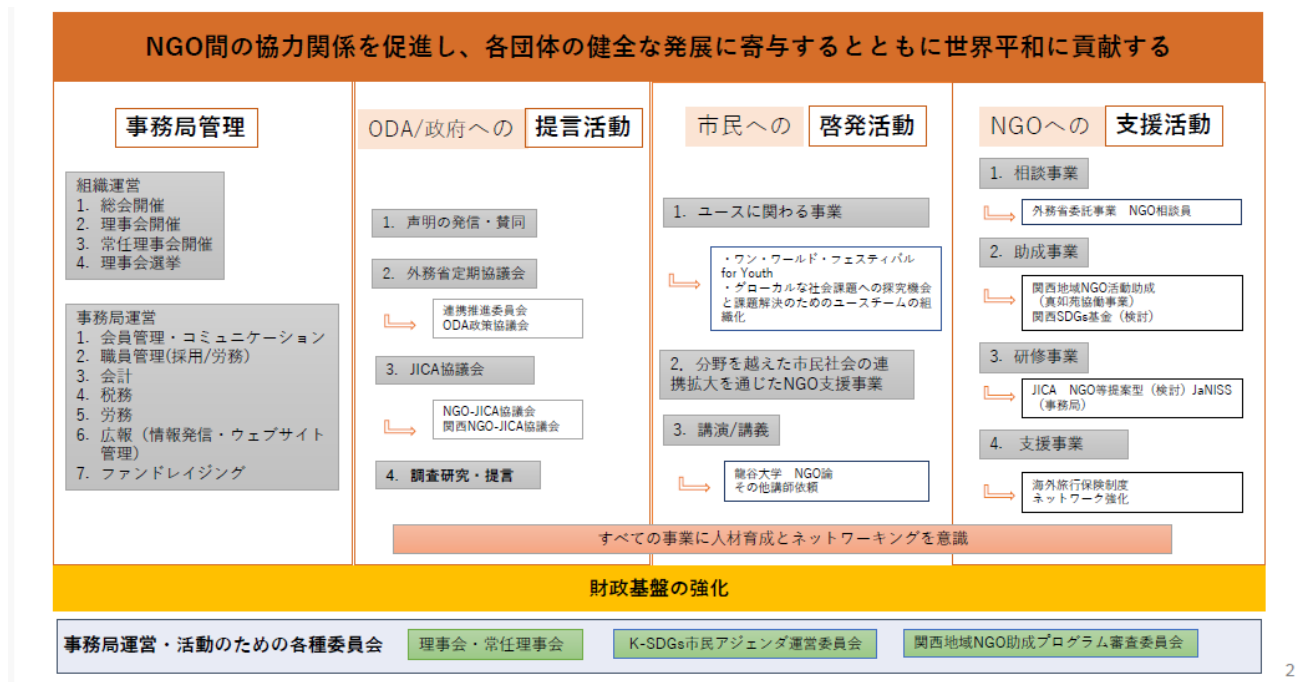
④ 外部の協力者・支援サービスの活用を含めた管理体制の見直しと強化

会計入力業務の外注や、AI を活用した記録作成など、管理体制の効率化を目指し、2023 年度よりも管理業務の改善が行われた。

事業の選択と集中をテーマに掲げる一方で、助成金の停止や返還を避けるため、始まった事業においては維持を重視した。それぞれで一定の成果を出す一方で、自主財源の獲得と自主事業拡大に課題が残る 1 年となった。

関西 NGO 協議会 3本の活動の柱	
1	国際協力を促進するための提言事業
2	国際協力に関する知識の普及・啓発事業
3	NGO 活動に関する相談及び支援事業

2024 年度活動計画



1. ODA/政府への提言活動

事業名 (継続)	外務省定期協議会・JICA 協議会への委員・コーディネーターの参加を通じた提言活動
担当	担当理事： 熱田典子（副代表・NGO-外務省定期協議会連携推進委員会 NGO 側委員） 栗田佳典（NGO 側連携推進委員会事務局、NGO-JICA 協議会 NGO 側コーディネーター） 岡島克樹（理事・ODA 政策協議会 NGO 側コーディネーター）
事業目的 と内容	目的：NGO と ODA 関連機関との対話の場への参加を通じて、関西 NGO 協議会の加盟団体の声を集約し、中小規模 NGO や地域の NGO が活用しやすい制度設計、ODA の課題について NGO 側の意見を集約し NGO 支援制度にむけた提言を行う。また、対話を通じて ODA の透明性・説明責任の向上を図り相互理解を深め、日本の国際協力の質の向上を図る。 各定期協議会への委員やコーディネーターの参加だけでなく、関西 NGO 協議会が NGO 側連携推進委員会の事務局を務めた。事務局業務においては年 3 回の連携推進委員会や全体会議の開催を調整した。また日本 NGO 連携無償資金協力の実施要領説明会の開催も担当し、200 名を超える会を取り仕切った。 ■NGO-外務省定期協議会全体会議 2024 年 6 月 21 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分 ○アジェンダ・議事録（外務省ウェブサイト） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/pagew_000001_00228.html 第 1 回連携推進委員会 2024 年 7 月 4 日 14 時～15 時 48 分 ○アジェンダ・議事録（外務省ウェブサイト） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/pagew_000001_00229.html 第 2 回連携推進委員会 2024 年 12 月 12 日 15 時～17 時（北海道での開催） 熱田が司会を担当した。 アジェンダ・議事録は外務省ウェブサイトに未掲載（5 月 8 日現在） 第 3 回連携推進委員会 2025 年 3 月 24 日 14 時～16 時 アジェンダ・議事録は外務省ウェブサイトに未掲載（5 月 8 日現在） 第 1 回 ODA 政策協議会 2024 年 7 月 26 日 14 時～15 時 40 分 岡島が司会を担当した。 ○アジェンダ・議事録（外務省ウェブサイト） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/pagew_000001_00231.html

第 2 回 ODA 政策協議会 2024 年 12 月 6 日 14 時~16 時 30 分

岡島が司会を担当した。

○アジェンダ・議事録（外務省ウェブサイト）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/pagew_000001_00301.html

第 3 回 ODA 政策協議会 2025 年 3 月 18 日 14 時~16 時

岡島が司会を担当した。

○アジェンダ・議事録は外務省ウェブサイトに未掲載（5 月 8 日現在）

.....

■NGO-JICA 協議会（オンライン、対面）

担当：栗田

第 1 回 NGO-JICA 協議会 2024 年 9 月 10 日 15 時~17 時

JICA 本部とオンラインのハイブリッド開催

○アジェンダ・要旨議事録（JICA ウェブサイト）

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/ngo_meeting/2024_01.html

第 2 回 NGO-JICA 協議会 2025 年 3 月 11 日 15 時~17 時

コーディネーターとして栗田が閉会挨拶を担当した。

○アジェンダ・要旨議事録（JICA ウェブサイト）

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/ngo_meeting/2024_02.html

栗田は NGO 側コーディネーターの代表となり、JICA と NGO とのコーディネーター会議、NGO 側コーディネーター会議を複数回開催し、出席した。また資金の管理やコーディネーター間の調整など、NGO-JICA 協議会の運営において重要な役割を担った。

なお、関西 NGO-JICA 協議会については開催目的や内容について検討をした。2024 年度は全国の NGO と JICA の協議会の調整を優先し、年度内の開催には至っていない。

.....

■NGO-JICA 勉強会（オンライン）

担当：栗田

NGO と JICA が関心を持つ共通のテーマによる勉強会を年間数本開催している中、NGO 側主催の勉強会の委託業務が公示され、関西 NGO 協議会が受託し、3 回の勉強会の企画、運営を担当した。

○NGO の成長を考える（中間支援を行う JANIC×KNC による対談と ACE による事例発表）

2025 年 2 月 14 日（金）16 時~17 時 30 分

スピーカー：

認定 NPO 法人 ACE 代表 岩附由香 氏

	特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）事務局長 水澤恵 氏 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 栗田佳典 モデレーター：特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 栗田佳典 申込人数：NGO 等、NGO 等を支援する組織・支援者 60 名 JICA36 名 ○「HDP ネクサス（人道・開発・平和の連携）」の視点に基づくプロジェクト事例と NGO-JICA 間の連携促進について 開催日：2025 年 1 月 10 日（金）16 時～17 時 30 分 スピーカー： JICA ガバナンス・平和構築部 平和構築室企画役 山中祥史氏 特定非営利活動法人 グッドネーバース・ジャパン 海外事業部長 河合裕司氏 特定非営利活動法人 CWS Japan 事務局長 小美野剛氏 モデレーター： 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 デラワリ ケイ 特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 栗田佳典 申込人数：NGO 側 16 名 JICA 側約 10 名 協力：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 ○「HDP ネクサス（人道・開発・平和の連携）」の視点に基づくプロジェクト事例と NGO-JICA 間の連携促進について 開催日：2025 年 3 月 6 日（木）16 時 30 分～18 時 00 分 モデレーター：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 山本英里 全体司会：公特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 栗田佳典 参加人数：NGO 側 15 名 JICA 側約 4 名 協力：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 上記勉強会を通じて、NGO と JICA の連携促進を検討する機会を提供することができた。
--	--

事業名	声明の発信、賛同、パブリックコメントの提出 声明、要望書の賛同、アドボカシー活動への参加
担当	理事会 事務局：栗田佳典
目的	貧困や飢餓、偏見・差別など、生きていくことが困難な状況にあるにもかかわらず、それを政府や社会に訴えることが出来ない人たちや字の読み書きができない、通信手段がないため具体的にどう訴えていけばよいのかわからないという人々がいる。そうした方々の声を大切に、途上国政府だけでなく、先進国の世論にも訴え改善策を提言し、よりよい社会の実現を目指す。また、NGO ひとつひとつの団体にできることは限られていても、NGO のネットワークを構築することで、より効果的な提言活動が可能となることから、関西 NGO 協議会は理事会を中心に、加盟団体、研究機関、全国のネットワーク NGO と共に提言活動を推進する。

	また、加盟団体をはじめ、関係する NGO が発信した声明や要望書に団体として賛同し、広く社会に訴えかけるアドボカシー活動、関係省庁に対する提言活動を展開した。
【賛同】 ミャンマーODA 停止を求める要請書	
担当	理事会 事務局：栗田佳典
内容	2024 年 10 月 3 日賛同 クーデターから 1 年 8 ヶ月が経過する中、ミャンマー国軍は国際犯罪にも相当する深刻な人権侵害を続けている。日本の ODA が国軍を利することにより、日本が国軍による人権侵害に加担する可能性について深い懸念を示し、日本政府がこれまで実施済みの ODA に関してモニタリングに責任を持ちつつ、人道支援以外の実施中の ODA をすべて停止することを求める。
【賛同】 NGO による共同声明 「停戦を、今すぐに。」	
担当	理事会 事務局：栗田佳典
内容	2024 年 10 月 4 日賛同 ガザにおける未曾有の人道危機が始まって、この 10 月で 1 年が経過するが、依然として停戦はなされず、被害は拡大の一途をたどっている。日本の NGO6 団体（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、日本国際ボランティアセンター、パルシック、パレスチナ子どものキャンペーン、ピースウィンズ・ジャパン、ピースボート）は、このタイミングで改めて停戦を求めるため、合同で声明文を発出。その内容に賛同した。

2. 国際協力に関する知識の普及、啓発活動

事業名 (継続)	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2024
担当	事務局：栗田佳典、菅野諒子（アルバイト） インターン：松下歩夏、川邊菜帆心
実施日時	2024年12月22日（日）10:00～16:30
実施場所	大阪 YMCA（大阪市西区土佐堀1丁目5-6）3階～5階の教室
受益対象参加人数	6のブース（NGO等11団体、高校5校）が出展し、112名が参加。 15名のボランティアが協力した。
共催・協力	【主催】特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 【協力】公益財団法人大阪 YMCA、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth アドバイザリーグループ
実施内容	従来は高校生を対象としたイベントだったが、今年度から大学生世代にも対象を拡大。「関西を中心とした NGO とユース世代、教育関係者、企業・団体との連携促進」を目的に、12月22日に開催した。今年度は広いホールではなく、教室をブースに見立て、国際協力、SDGs、多文化共生をテーマとする団体を募集。イベント当日は、建物内の教室で NGO や団体、教育機関などがそれぞれ工夫を凝らし、ワークショップやポスターセッション、講演会、相談・質問対応など、多様な形式でユース世代との交流を行った。 また、大阪府立高津高校から14名のボランティアを受け入れ、会場誘導や資料整理、ワークショップへの参加などを通じて、学びの機会を提供できた。参加者の中には福島県から訪れた人や、保護者と一緒に参加した人もおり、キャリアを考える貴重な機会となった。一方で、来場者の満足度は高かったものの、当日キャンセルが20名を超え、想定より来場者数が伸びなかったことが今後の課題となった。

	【2024 年度 事業の概要】	
	名 称	『ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2024』
	後 援	文部科学省 JICA 関西 朝日新聞社 関西 SDGs プラットフォーム 認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）
	協 賛	真如苑 株式会社オルタナティブツアー
	補 助 金・助 成金等	SOMPO ちきゅう倶楽部社会貢献ファンド 阪神高速 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト助成事業近畿労働金庫・ 社会貢献預金（笑顔プラス） 寄付金
   		

事業名	グローバルな社会課題への探究機会と課題解決のためのユースチームの組織化 ※阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト
担当	事務局：仲井友佳子→栗田佳典 インターン：松下歩夏、川邊菜帆心
実施内容	社会課題の探究を通じた国際協力ローカルスタディツアーの実施と課題解決のためのユースチームの組織化を目的に実施した当事業では、大学生を中心とする若い世代と課題探究やフィールドワークに取り組み、ユースチームの組織化を進めることができた。 具体的な成果① 大学生を中心とする若い世代のユースチームの組織化ができた。具体的には 2 名の大学生が中心となり、13 名がチーム登録済み（登録はしていないが、情報提供希望者は 15 名）。

実施内容① 地球規模の課題解決に関心を持つユース向けに、NGO の事務所を訪問し、活動を聞き、意見交換を実施するフィールドワークを 2 回、国際協力に関するイベント（ワン・ワールド・フェスティバル for Youth、JICA 秋祭り）への参加を 2 回、オンラインでの交流会（定例ミーティング）を 6 回実施した。企画や調整にはユースメンバーがコミュニケーションツールである Slack を活用し、イベント情報の連絡や互いのコミュニケーション機会を創出。個別でのキャリア相談対応なども行い、これらの取り組みがユースチームの組織化へとつながることができた。関西 NGO 協議会は、中心となる 2 名の大学生をインターンシップ生として受け入れ、活動への助言や運営をサポートして、ユースチームの組織化を伴走した。

具体的な成果② ワン・ワールド・フェスティバル for Youth を通じたユースと NGO や国際機関の連携を促進した。

実施内容② 12 月に高校生・大学生世代を対象にしたワン・ワールド・フェスティバル for Youth を実施。70 名の参加と 42 名の出展関係者、計 112 名の参加となった同イベントでは NGO や国際機関による気候変動や人権等、様々なテーマによるブース出展が行われ、ユースが地球規模課題を学ぶだけでなく実際に取り組み、NGO 関係者との関係性を構築する機会を提供した。また運営ボランティアもユースで構成し、運営側で参画する機会を提供した。結果として大阪の高校生だけでなく、福島の高校生の参加もあった。



事業名	分野を超えた市民社会の連携拡大を通じた NGO 支援事業 ※日本国際協力システム（JICS）
担当	事務局：仲井友佳子→栗田佳典
実施内容	環境系団体や地域の NPO、海外の CSO との協働の機会を増やす。国際協力 NGO を中心に、市民社会全体の認知度やプレゼンスの向上に繋げるべく、分野や地域を超えた協働・連携の機会を増やしていくための事業を展開した。 月に 1 回、関西地域の間接支援組織とのミーティングを通じて、情報交換、意見交換を実施した。 第 1 回：2024 年 12 月 23 日（月）15 時～17 時 参加者 7 名 話題提供団体：気候ネットワーク 田中十紀恵 氏 テーマ：気候変動 COP26（2024 年 11 月開催）の最新情報を交え、気候変動と私たちの活動・生活のつながりについて話題提供をいただき、参加者で意見交換をおこなった。  第 2 回：2025 年 1 月 23 日（木）15 時～17 時 参加者 9 名 話題提供団体：CODE 海外災害援助市民センター 山村太一氏 島村優希氏 テーマ：災害支援・復興 能登半島地震から 1 年が経ち、現状や課題、これからの能登半島の復興に向けてお話いただき、参加者との意見交換をおこなった。  第 3 回：2025 年 2 月 12 日（水）17 時～19 時 参加者 8 名 話題提供団体：PHD 協会 坂西卓郎 氏 テーマ：多文化共生 多文化共生（困窮外国人支援を含む）をテーマに話題提供をいただき、参加する CSO の皆様と意見交換をして交流を深めることができた。  その他 CODE 寺子屋セミナー2024 災害多発時代に今一度、気候変動を考える 2025 年 2 月 22 日（土）13 時 30 分～16 時 近畿ろうきん肥後橋ビル 12 階メインホール 災害と環境問題を掛け合わせた同セミナーの企画から参画までを実施。第 1 部は江守正多さんの基調講演が行われ、気候変動の現状や課題に対する理解を深めた。第 2 部のパネルディ

	スカッションでは、栗田が進行を務め、関西 NGO 協議会のインターンがユース代表として登壇した。   JVCC2025 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 in 京都 2025 年 2 月 22 日（土）～23 日（日） 開催場所：龍谷大学 ネットワークの強化のため、中間支援やボランティアコーディネーションを行う担当者が集うボランティアコーディネーション研究集会に実行委員として参画。ミーティングへの参加と当日はクロージングセッションのファシリテーターを栗田が担当した。 また、後述の SDGs 万博市民アクションの取り組みも関連させながら、関西 NGO 協議会を中心とした分野を超えた市民社会の連携拡大を促進した。
--	---

事業名	SDGs 万博市民アクション
担当	事務局：仲井友佳子→栗田佳典
協力団体	KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会 大阪女学院大学 ウータン・森と生活を考える会 NPO 法人 AM ネット
実施内容	大学生と一緒に「万博の SDGs・平和・人権」を考える分科会の主担当として、以下 3 点を目的に活動をおこなった。 ① 万博を通じて、SDGs や人権・平和の視点が広く知られるきっかけとなること。 ② 国際的かつ多様な視点から人権・平和について考える機会を創出し、それらを自分ごととして捉えられる場にする。 ③ 行動計画が策定・実施されることで、一過性のイベントではなく、社会全体の人権・平和の促進に寄与する万博となること。 上記目的を達成するために 2024 年度は、計 3 回の勉強会の実施、記者会見への参加、取り組みの報告、人権・平和を切り口にした市民社会からの意見を発信した。 第 1 回勉強会 2024 年 12 月 26 日（木）10 時～12 時 関西 NGO 協議会会議室 参加人数：8 名 NGO と市民社会組織の役割と活動、SDGs 万博市民アクションについて学生に説明。博覧会協会の人権方針、人権デューデリジェンス、行動計画から 5 つの P の「ピース」と「ピープル」を読み合わせした。学生からはピースの視点がほぼないこと、イスラエルの参加問題

や女性の参画についての懸念が提起され、万博の理念と実際の取り組みのギャップに焦点が当てられた。特にウーマンズバビリオン設置の計画について議論し、男女の性別にとらわれないインクルーシブな社会の実現を目指すとされているが、実際の組織構成では上層部に女性が少ない指摘もあった。行動計画と実際の取り組みの間にギャップがあることを懸念し、さらなる検討と意見交換の必要性を確認した。

第2回勉強会

2025年1月7日（火）10時～12時 オンライン 参加人数：8名

博覧会協会の持続可能な行動計画にある5つのP「ピース」と「ピープル」の記載を参加者で読み込んだ。結果、学生からピースの内容が、一般的に想像される平和の概念とはかけ離れている、SDGsの目標16に基づいた本来のピースの意味を反映させる取り組みが必要ではないかと指摘があった。

第3回勉強会

2025年3月21日（金）15時～17時 関西NGO協議会2階会議室 参加人数：11名

松原氏から学ぶ万博の人権・平和の取り組み

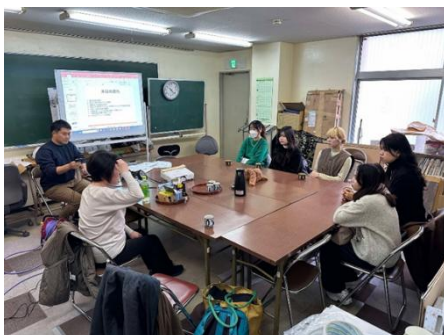
ゲスト：松原稔氏 博覧会協会人権ワーキンググループ委員

りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 常務執行役員 責任投資部担当

松原氏が所属する金融の世界が、持続可能性を高める可能性がある。株主として、ビジネスと人権に関する指導原則にのっとり、企業に働きかけている。事実をつかむために、どのような質問をするかが重要。また国際的な投資家のネットワーク「責任ある投資の原則

（PRI）」の重点課題にも気候変動、人権は焦点が当てられている。博覧会協会が実施している人権ワーキンググループでどのような議論がされているのか、人権DDが本当に機能するのか、今後国内への浸透に期待したいことなど、松原氏からお話いただいた。

万博で扱われる人権とは？自分の人権が侵害されているかも等と気が付かない、など参加する大学生とともに活発に議論がなされた。大阪万博における人権の取り扱いを、委員として途中経過をどう把握するか指摘していること、万博初の人権DDと謳うのであればしっかり実施するよう協会に指摘していくことなどが共有された。



事業名 (継続)	講演、講座、講師紹介
担当	事務局：栗田佳典

	協力役員：熱田典子、吉椿雅道、石崎雄一郎、田中十紀恵、武田かおり ほか、加盟団体・個人会員		
実施内容	大学や他セクターからの依頼で、国際協力 NGO の活動や国際協力の潮流について、国内外の事例を併せ広く学生、社会人に周知する講座の講師、加盟団体への講師紹介を行った。		
	講演・講義依頼	講義名	受講者人数
	龍谷大学（後期、全 15 回）	『国際 NGO 論』 ※NGO ユニット型講座	龍谷大学経済学部・法学部の学生 24 名

その他、講演先一覧*順不同

企業・団体	星和電機株式会社／近畿労働金庫（コープこうべ北須磨委員会、コープこうべ第 1 地区本部 塚口事務所、コープこうべ西淀川コープ委員会、コープこうべ東豊中コープ委員会、コープこうべ高槻西コープ委員会、コープ自然派兵庫、大阪いずみ市民生協、奈良コープ）／トビタテ留学 JAPAN
教育機関	< 小学校 > 京都市立第三錦林小学校／京都市立元町小学校 < 中学校 > 京都市立洛西中学校／奈良市立若草中学校／泉大津市立誠風中学校／西脇市立西脇中学校／京都市立大宅中学校／豊岡市立但東中学校／枚方市立招堤北中学校／寝屋川市立第三中学校 < 高校 > 大阪府立佐野高校／京都府立福知山高校／京都市立日吉ヶ丘高校／和歌山県立笠田高校／京都府立西舞鶴高校／大阪学院大学高校／PL 学園中学校・高校 < 大学 > 甲南女子大学／同志社大学／龍谷大学／東海大学／龍谷大学短期大学部／神戸大学／池坊短期大学
行政	平群町役場

事業名 （継続）	関西 SDGs プラットフォーム運営委員会・総会の参加 （事務局：JICA 関西他/近畿経済産業局）
担当	副代表理事 熱田典子（総会まで）→理事 石崎雄一郎（総会以降）
実施内容	総会資料提出に向けた調整、総会資料報告会での説明 関西 SDGs 基金（仮）設立の検討に関する JICA 関西はじめ運営委員会との調整等

事業名 （継続）	関西 SDGs 基金（仮）に向けたヒアリングや調整
担当	理事：熱田典子、石崎雄一郎 事務局：栗田佳典 高橋美和子（アドバイザー）
内容	2018 年に開催された関西 SDGs プラットフォーム（以下、KSP とする）総会の場で、KSP 会員から基金設立検討の提案を受け、検討が始まった。2024 年度は、コミュニティファンドへのヒアリングをもとに基金の構成案を KSP 事務局へ説明し、意見収集を行った。

事業名	京都 SDGs ラボ SDGs 情報発信
担当	栗田佳典
実施内容	月に一度のペースで京都 SDGs ラボにおける SDGs 関連の情報発信を行い、京都府内の教育機関、JICA 関係者、企業、NGO を対象に SDGs を通じた連携や協働を促した。

事業名 (継続)	大阪大学 SDGs 国際学生交流プログラム SDGs 動画コンテスト 審査員
担当	高橋美和子 (アドバイザー)
実施内容	大阪大学および世界の提携校から応募のあった SDGs 動画コンテストの最終審査の協力。

事業名 (継続)	インターン生の受け入れ
担当	事務局：栗田佳典
インターン	松下歩夏さん 大学2年(7月～3月) 2025年度も継続中 大学のプログラムを利用して、参加。9月からは独自のインターンとして延長し、ユースグループの立ち上げ、毎月のミーティングの企画や連絡、団体内の業務補助、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth の運営に尽力した。
	川邊菜帆心さん 大学2年(10月～3月) 2025年度も継続中 10月からは独自のインターンとして延長し、ユースグループの立ち上げ、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth の運営に尽力した。また、近畿労働金庫、CODE、関西 NGO 協議会の三者合同で実施をしている CODE 寺子屋に登壇し、ゲストスピーカーとの対談も担当した。

3. NGO への支援活動

事業名（継続）	外務省 NGO 相談員 国際協力に関する相談対応、出張サービス（ブース出展、講演など）の実施 * 外務省 NGO 環境整備事業
担当	事務局：栗田佳典、仲井友佳子
実施日時	通年
実施場所	関西 NGO 協議会事務所、オンライン、諸会合、高校・大学など
受益対象者、人数	国際協力に関心のある個人、団体、教育機関、企業など 相談数：299 件 出張サービス：8 件
実施内容	2024 年度は、例年通りの相談内容に加え、ウクライナ、ガザ、コンゴなどの国際情勢についてや、学生からのスタディツアー、ボランティア、キャリアに関する相談が増えた。また団体からは、前年度の NGO 研究会の調査報告をもとにした NGO の経営課題に関する相談が増加した。 出張サービスは、講演については、継続依頼をいただいている大学や高校で実施をした。対面ブースについては東京でのグローバルフェスタや大阪のワン・ワールド・フェスティバルなどの対規模イベント等に出展し、啓発を行った。また、NGO 相談員周知のための外務省主催イベントの運営に企画から協力し、NGO 相談員の認知拡大に貢献をした。全国の NGO 相談員との意見調整をおこない、NGO と外務省との連絡会議では NGO 側の要望を伝え、スキームの改善に貢献した。

事業名（継続）	2024 年度関西地域 NGO 助成プログラム		
担当	事務局：栗田佳典		
協働	宗教法人 真如苑		
最終審査	日時：2024 年 12 月 7 日（土）10:00-18:00 会場：大阪梅田アプローズタワー貸会議室 12 号室		
助成期間	2025 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 31 日		
助成テーマ	①組織基盤強化助成 ②プロジェクト実施助成		
助成先	プロジェクト	つるはしにほんごきょうしつ	地域で暮らす外国人のエンパワーメント事業
	プロジェクト	ニランジャンナセワサンガ	P C 教室開設によるインド・ビハール地域 教育の質向上および未来創出 PJ
	組織基盤	LINK UP JAJA	ジャマイカで障害者支援を行う NPO 法人 LINK UP JAJA の組織基盤強化事業
	(総額 120 万円)		
審査委員会	審査委員長：新田和宏（近畿大学准教授）		

	審査委員：森下晃司（近畿労働金庫）、藤本直宏・石井康史（真如苑）、井川定一（国際協力コンサルタント）、中山麻衣子（税理士）
--	---

事業名	全国ネットワーク NGO のつどい
担当	事務局：栗田佳典（世話人団体）
内容	2025 年 2 月 18 日にオンライン開催をした。地域のネットワーク NGO が抱える課題の共有、各地域のユースに関わる取り組みの共有、そして政策提言に関する団体の体制や具体的な関わりについて情報・意見交換をおこない、連携強化の機会をつくることができた。 NGO 福岡ネットワーク、北海道 NGO ネットワーク協議会、横浜 NGO センター、JANIC、名古屋 NGO センター、埼玉 NGO ネットワーク、四国グローバルネットワーク、関西 NGO 協議会 計 18 名が参加した。

事業名	NGO 安全管理イニシアティブ（JaNISS）事務局業務及びメディア対応研修
担当	事務局：栗田佳典、仲井友佳子
内容	JaNISS の事務局を JANIC から引継ぎ、世話人会および全体会合の日程長や記録、出欠調整、郵送物の対応等をおこなった。また、7 月 22 日に開催されたメディア対応研修の事務局業務を担当。当日の運営協力をおこなった。

事業名	加盟団体向け海外旅行保険制度
担当	事務局：栗田佳典
内容	加盟団体向けの支援として、補償内容はそのまま、独自で契約するよりも割安になる海外旅行保険制度の設計を行い、2024 年 2 月より開始した。 2024 年度は 3 団体 21 件約 40 万円の利用があった。

事業名 （継続）	大阪マラソン組織委員会チャリティ専門部会運営委員
担当	高橋美和子（アドバイザー）
内容	大阪チャリティマラソン支援先団体（NGO,NPO など）の審査、選考基準の策定等にかかわり、スポーツを通じたチャリティ文化の醸成、大阪・関西を含む全国の非営利セクターのチャリティパートナーとしての参加促進に寄与した。

4. 組織、事務局

項目	2024 年度総会の開催（第 23 回定期総会）
実施日	2024 年 5 月 11 日（日）15 時 00 分～16 時 40 分
開催場所	心斎橋本町レンタルスペース会議室 〒541-0058 大阪府大阪市中央区南久宝寺町 4-3-2 I ビル 4F
出席正会員数	18 団体（うち委任状出席者数 6 団体）正会員総数 21 団体
議事	第 1 号議案 2023 年度活動報告（案）及び収支決算書（案）について 第 2 号議案 2024 年度活動計画（案）及び収支予算（案）について 第 3 号議案 監事の選任について 第 4 号議案 定款の変更について
備考	総会の開催後、参加者同士の交流会が行われた。

理事会	2024 年度理事会の開催		
担当	栗田佳典		
理事	◆常任理事 代表理事 三輪敦子 （一財）アジア・太平洋人権情報センター 副代表理事 熱田典子 （公社）アジア協会アジア友の会 常任理事 吉椿雅道 （特活）CODE 海外災害援助市民センター ◆理事 石崎雄一郎 ウータン・森と生活を考える会 田中十紀恵 （特活）気候ネットワーク 河合将生 office musubime 岡島克樹 大阪大谷大学 教員 ※栗田佳典 （特活）関西 NGO 協議会（職責）		
監事	岩崎裕保 （特活）開発教育協会/DEAR 武田かおり（特活）AM ネット		
実施内容	2024 年度はすべてオンラインで開催した。		
	回数	日程	議題
	第 1 回	5 月 1 日（日） 14：00-16：00	ODA 政策協議会の承認、総会の議案、資料の確認、承認等
	第 2 回	7 月 11 日（日） 19：00-21：00	他団体との連携、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth の開催内容について、理事選挙について等
	第 3 回	9 月 30 日（木） 19：00-21：00	他団体との連携について、マンスリーサポーターについて、事務局体制について等
	第 4 回	1 月 28 日（月） 19：00-21：00	事務所移転について、2025 年度の計画について等
	第 5 回	4 月 3 日（木） 19：00-21：30	2025 年度の事務局体制について、関西 SDGs プラットフォームとの関わりについて等

監査	2024 年度事業及び会計監査の実施
監事	岩崎裕保、武田かおり
実施日	2025 年 5 月 2 日 13：30～15：30【会場】関西 NGO 協議会事務局事務局対応：栗田

各種定例委員会への参加	
子どもの権利関西ネットワーク（月 1 回）～9 月まで	栗田佳典
SDGs ジャパン地域ユニット（月 1 回）	仲井友佳子、理事：岡島克樹
JaNISS（安全危機管理イニシアティブ）定例会	栗田佳典、仲井友佳子

事務局・各運営委員会

2024 年度事務局体制	
事務局スタッフ	栗田佳典（事務局長/職責理事） 仲井友佳子（SDGs 普及啓発/K-SDGs） ※2024 年 12 月～2025 年 3 月までは、CODE 海外災害援助市民センターから毎週 1 名のスタッフの方へ業務委託をし、事業実施、団体運営にご協力いただいた。
アルバイト	菅野諒子（2024 年 12 月退職）
インターン	松下歩夏、川邊菜帆心
アドバイザー	高橋美和子
ボランティア	中村順子

2024 年度 KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会（順不同 敬称略）	
運営委員	【総合コーディネーター】 岩崎裕保（開発教育協会） 【運営委員】 熱田典子（アジア協会アジア友の会） 三輪敦子（ヒューライツ大阪） 新田和宏（近畿大学） 田尻忠邦（社会福祉法人聖ヨハネ学園）岡島克樹（大阪大谷大学） 吉椿雅道（CODE 海外災害援助市民センター）東川貴子（緑の地球ネットワーク）
事務局	栗田佳典、仲井友佳子

2024 年度関西地域 NGO 助成プログラム審査委員会（順不同 敬称略）	
審査委員	新田和宏（近畿大学准教授） 森下晃司（近畿労働金庫地域共生推進室） 井川定一（開発・人道支援コンサルタント） 藤本直宏・石井康史（真如苑社会交流部） 中山麻衣子（税理士）
事務局	栗田佳典